

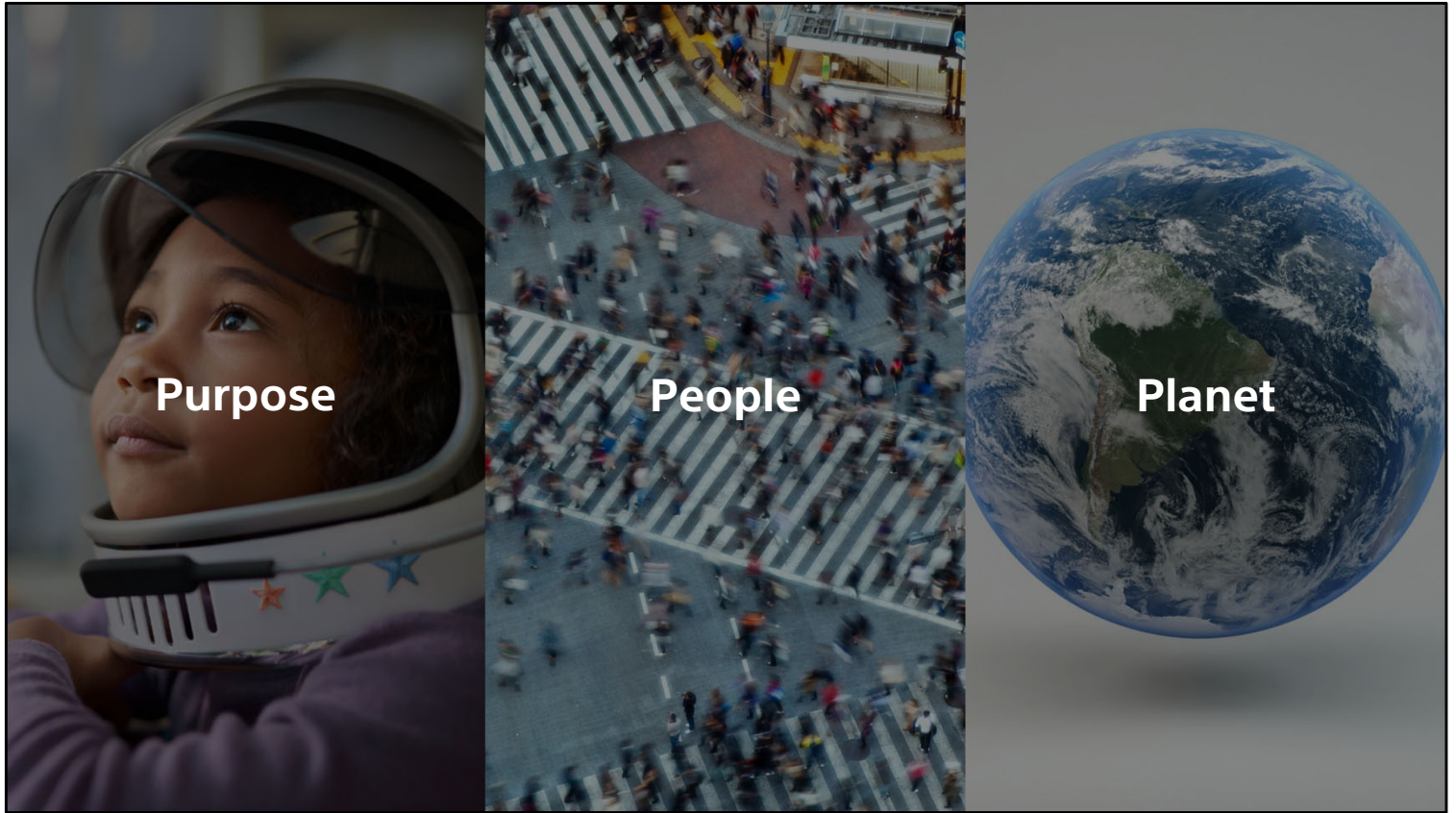
SONY

ソニーグループ ESG説明会

ソニーグループ株式会社
会長 兼 社長 CEO

吉田 憲一郎

2021年9月15日



- 皆様、こんにちは。吉田でございます。
- ソニーでは、「クリエイティビティとテクノロジーの力で、世界を感動で満たす」というPurposeに基づき、「人」を軸とした多様な事業を推進しています。
- 我々が企業活動を営むことができるのも、持続可能な社会、そして健全な地球環境があってこそです。



地球の中のソニー Sony and the Planet Earth

- この考えを私は2018年社長就任時のブログで、「地球の中のソニー」と表現しました。

責任
Responsibility

貢献
Contribution

- 「地球の中のソニー」としての環境活動には大きく2つのアプローチがあります。「責任」そして「貢献」です。

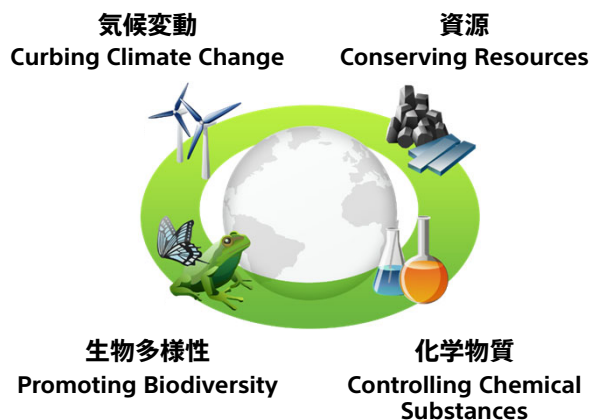
責任
Responsibility

貢献
Contribution

- まず、1点目の企業としての「責任」を果たす取り組みについてお話しします。

責任

Responsibility



- 例えば、当社は環境負荷ゼロを目指す長期環境計画、「Road to Zero」を2010年から始動しています。気候変動、資源、化学物質、そして、生物多様性という4つの視点があります。

責任

Responsibility



Original Blended Material

- 最近の取り組みを一つご紹介すると、こちらにある「オリジナルブレンドマテリアル」の開発があります。

責任

Responsibility



- 特定の原産地から調達した竹、さとうきび、回収したリサイクルペーパーを原料としており、このブレンドマテリアル自体もリサイクルが可能です。

責任

Responsibility



- ソニーは2025年までに当社の小型製品に使用しているプラスチック包装材の全廃を目指していますが、こうした新しい素材を活かしたパッケージを推進していくことも、当社の「責任」としての環境活動です。

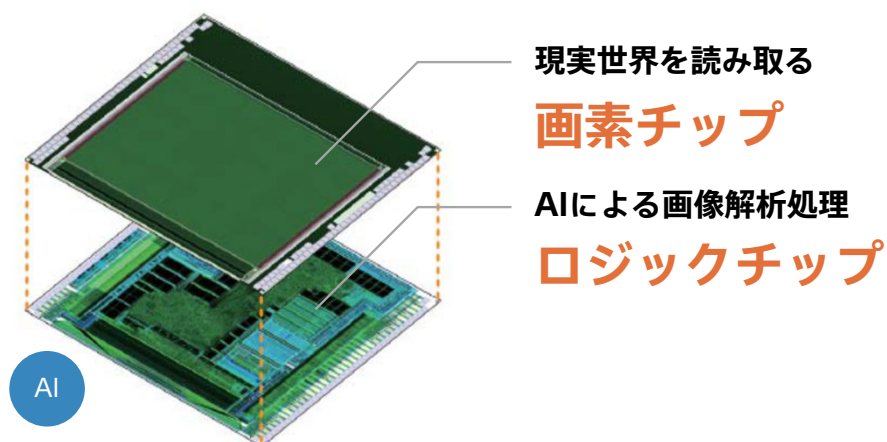
責任
Responsibility

貢献
Contribution

- 2点目は事業や技術を通じて「貢献」していく取り組みです。
- コロナ禍において、我々は在宅勤務などを通じて人がネットワークに繋がることの重要性をあらためて実感しました。今後はモノがネットワークにつながるIoTが社会の生産性向上に不可欠です。

貢献

Contribution



AI Sensor

- 当社のAIセンサーは、IoTの進化に貢献するとともに、AIを活用した画像解析処理により、取得したデータを目的に応じて大幅に削減することができます。セキュリティ・プライバシーに配慮しつつ、クラウドへのデータ量を減らすことができ、同時に消費電力の削減が可能となります。

貢献

Contribution



Mobility

- また、モビリティの進化への貢献としてVISION-Sという当社の車載センシング技術を満載したEV、及び車と5G通信で繋がるクラウドプラットフォームの開発を進めています。

貢献

Contribution

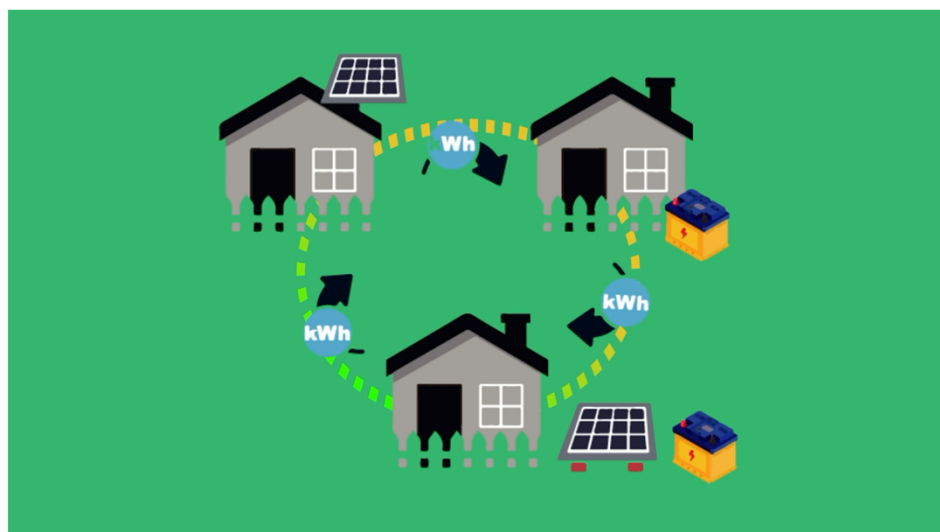


Mobility

- EVはマイクログリッドにおける大容量蓄電池の役割を果たし、また、クラウドプラットフォームに接続すればソフトウェアによって車を持続的に進化させることが可能です。その意味で、当社はEV、そしてクラウドプラットフォームも環境に貢献しうる技術と位置付けています。

貢献

Contribution



Open Energy System (OES)

- マイクログリッドに関しては、住宅と住宅の間で電力を直流で相互融通できるマネジメントシステムである、OES、オープンエネルギーシステムに取り組んでいます。これは太陽光パネルと蓄電池を組み合わせたもので、2014年からの実証実験の成果を昨年末よりオープンソース化しています。



“

宇宙から地球を見たときの大気が薄く、
守るべき地球であると感じた

”

JAXA宇宙飛行士

油井 亀美也 氏

©JAXA

- ここまで「地球の中のソニー」の「責任」と「貢献」について触れましたが、「宇宙の中の地球」という視点で我々が住む地球を再認識することも大切だと考えています。
- JAXA・宇宙飛行士の油井亀美也さんは以前、「宇宙から地球を見たときの大気が薄く、守るべき地球であると感じた」と述べられていました。

SONY



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

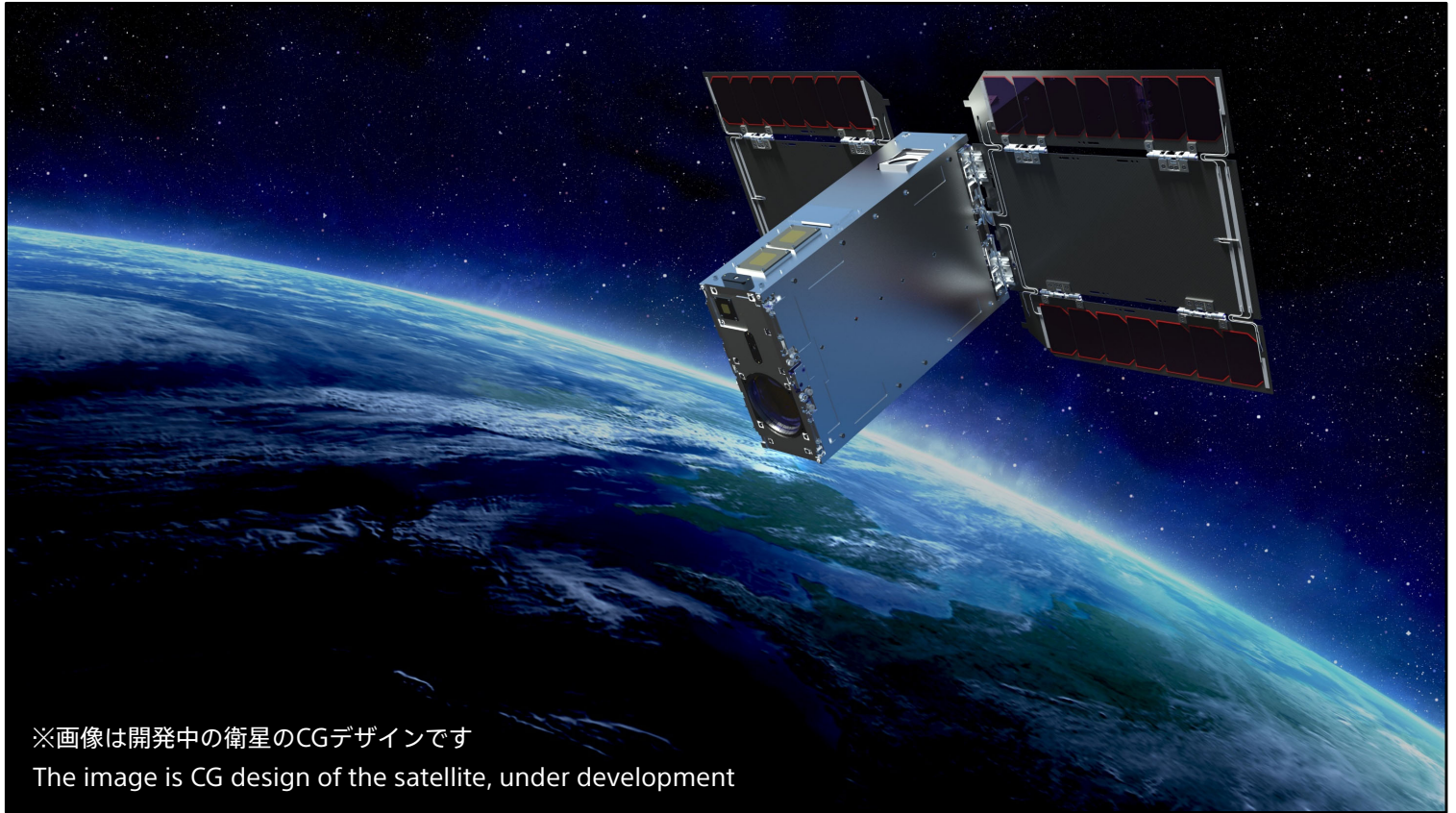


三者共同で宇宙感動体験事業を推進



©JAXA/NASA 油井宇宙飛行士が国際宇宙ステーションから撮影

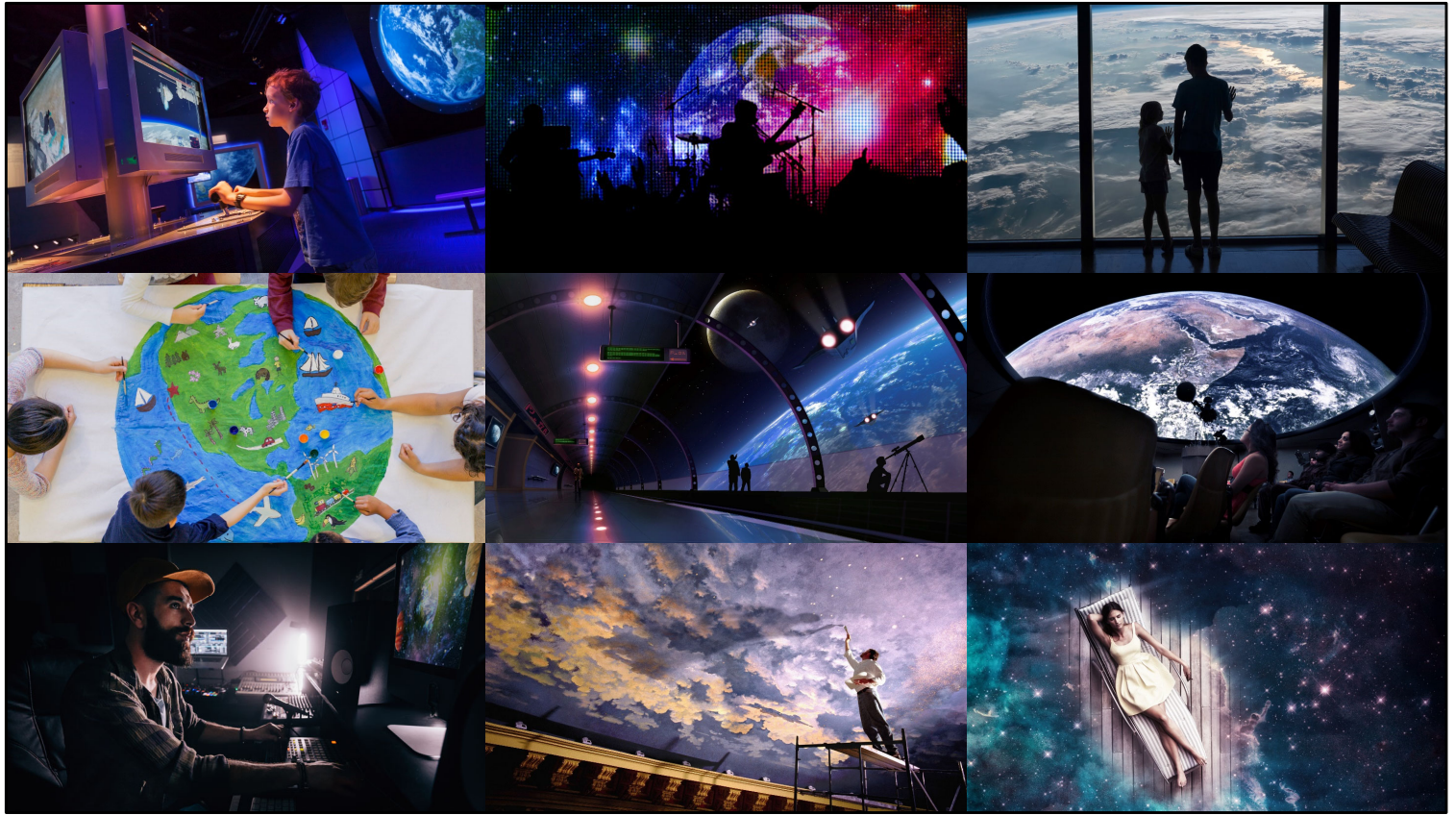
- 油井さんが宇宙から見た地球の姿を、ソニーのカメラ機器が搭載された人工衛星から届けるため、当社は現在、JAXA、東京大学と共に技術実証と事業探索を進めています。



※画像は開発中の衛星のCGデザインです

The image is CG design of the satellite, under development

- こちらに示しているのは来年の打ち上げを目指し、ソニーと東京大学で開発中の超小型人工衛星です。
- 自由度の高い姿勢制御を特徴とし、ユーザー自身が様々なカメラワークで地球や星を捉えることができます。



- 宇宙は地球について学ぶ「場」でもあるという油井さんからの「学び」も活かし、クリエイターやパートナーとの協創を通じて、宇宙の視点を人々に広めていきたいと考えています。

新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金 (1億USドル)			グローバル・ソーシャルジャスティスファンド (1億USドル)		
医療	教育	クリエイティブ コミュニティ			
 フェイスシールド寄贈	 学習機会に制限が生じている子どもたちへの教育支援	 DIVOC-12 <small>ディボック・トゥエルブ</small> 映画制作の機会提供によるクリエイター支援	 International African American Museumへの製品寄贈	 National Museum of African American Musicとのパートナーシップ	 ゲーム業界のダイバーシティ促進
 医療機関へのaiboの無償提供	 STEM教育コンテンツの制作・配信	 フォトグラファーへのカメラ無償点検の提供	 アフリカ系アメリカ人向けラジオの設立支援	 テレビ番組制作業界における多様なバックグラウンドを持つ人材への機会提供	 アフリカ系アメリカ人の女性に向けた音楽の研修プログラム

- ・ 「宇宙の中の地球」の事例のように外からの「学び」もあれば、多様な事業に関わるグループ11万人の社員からの「学び」もあります。
- ・ 私は、人材の「多様性」が組織の学習能力を高めてくれると考えています。
- ・ 昨年当社グループは新型コロナウイルスとソーシャルジャスティスに関連するふたつの基金を立ち上げました。これらの基金を通じた支援活動は多様な社員のアイデアや強い思いによって進められています。
- ・ 特に後者はソーシャルジャスティスを求める社会の動きに向き合った米国の経営チームからの学びがなければ実現できなかったと思っています。
- ・ ソニーグループが行っている社会への取り組みについては後ほど、ご説明いたします。
- ・ 今後も企業としての「責任」を果たし、社会そして地球に「貢献」していくため、人材の「多様性」を活かした「学び」を大切に、長期視点での取り組みをグループで推進していきます。
- ・ ご清聴、ありがとうございました。

SONY

SONYはソニーグループ株式会社の登録商標または商標です。

各ソニー製品の商品名・サービス名はソニーグループ株式会社またはグループ各社の登録商標または商標です。その他の製品および会社名は、各社の商号、登録商標または商標です。

将来に関する記述等についてのご注意

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭又は書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営陣の仮定、決定ならびに判断にもとづいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しにのみ全面的に依拠することは控えるようお願いします。なお、2021年度の連結財務諸表及び通期の連結業績の見通しは、国際財務報告基準（IFRS）にもとづき作成していますので、ご注意ください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直して改訂するとは限りません。ソニーはそのような義務を負いません。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- (1) ソニーが製品品質を維持し、その製品及びサービスについて顧客満足を維持できること
- (2) 激しい価格競争、継続的な新製品や新サービスの導入、急速な技術革新、ならびに主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい市場競争の中で、十分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス（イメージセンサー、ゲーム及びネットワークのプラットフォーム、スマートフォンならびにテレビを含む）をソニーが設計・開発し続けていく能力
- (3) ソニーがハードウェア、ソフトウェア及びコンテンツの融合戦略を成功させられること、新しい技術や配信プラットフォームを考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること
- (4) ソニーと他社との買収、合併、投資、資本的支出、構造改革その他戦略的施策の成否を含む（ただし必ずしもこれらに限定されない）ソニーの戦略及びその実行の効果
- (5) ソニーや外部の供給業者、サービスプロバイダやビジネスパートナーが事業を営む市場における法規制及び政策の変化（課税、及び消費者の関心が高まっている企業の社会的責任に関連するものを含む）
- (6) ソニーが継続的に、大きな成長可能性を持つ製品、サービス、及び市場動向を見極め、研究開発に十分な資源を投入し、投資及び資本的支出の優先順位を正しくつけて行い、技術開発や生産能力のために必要なものも含め、これらの投資及び資本的支出を回収することができること
- (7) ソニーの製品及びサービスに使用される部品、ソフトウェア、ネットワークサービス等の調達、ソニーの製品の製造、マーケティング及び販売、ならびにその他ソニーの各種事業活動における外部ビジネスパートナーへの依存
- (8) ソニーの事業領域を取り巻くグローバルな経済・政治情勢、特に消費動向
- (9) 国際金融市場における深刻かつ不安定な混乱状況や格付け低下の状況下においても、ソニーが事業運営及び流動性の必要条件を充足させられること
- (10) ソニーが、需要を予測し、適切な調達及び在庫管理ができること
- (11) 為替レート、特にソニーが極めて大きな売上や生産コストを計上し、又は資産・負債及び業績を表示する際に使用する米ドル、ユーロ又はその他の通貨と円との為替レート
- (12) ソニーが、高い能力を持った人材を採用、確保できるとともに、それらの人材と良好な関係を維持できること
- (13) ソニーが、知的財産の不正利用や窃取を防止し、知的財産に関するライセンス取得や更新を行い、第三者が保有する知的財産をソニーの製品やサービスが侵害しているという主張から防御できること
- (14) 金利の変動及び日本の株式市場における好ましくない状況や動向（市場の変動又はボラティリティを含む）が金融分野の収入及び営業利益に与える悪影響
- (15) 生命保険など金融商品における顧客需要の変化、及び金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否
- (16) 大規模な災害、感染症などに関するリスク
- (17) ソニーあるいは外部のサービスプロバイダやビジネスパートナーがサイバーセキュリティに関するリスク（ソニーのビジネス情報や従業員や顧客の個人を特定できる情報への不正なアクセスや事業活動の混乱、財務上の損失の発生を含む）を予測・管理できること
- (18) 係争中又は将来発生しうる法的手続き又は行政手続きの結果

ただし、業績に不利な影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。新型コロナウイルス感染拡大は、上記のリスク及び不確実な要素の多くに悪影響を与える可能性があります。重要なリスク及び不確実な要素については、ソニーの最新の有価証券報告書（その後提出される四半期報告書を含む）又は米国証券取引委員会に提出された最新の年次報告書（Form 20-F）も合わせてご参照ください